



第37号

(発行所)

真宗大谷派  
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30  
TEL (052) 411-5301  
FAX (052) 411-5341

## 母

母が学校を訪れたのはたった三回でした。

入学式・卒業式そして六年生の時の運動会です。何一つ発声せず後でみていると思うと、いつの間にやら弁当を置いてあつて去っていた。たしかに母の弁当は大がらでうまかった。いつもまきずしとおいなりさんであつたが、私はおいなりさんが好きであつた。

これをいただいて大いに学業にはげんだといたいたいのだが、成績はいつも中の上であつた。成績といえば常に気をくばってくれる父母がいるのだが、私の父母は一言も勉強せよとはいわなかった。そんなわけで成績は中の上で、両親も僕自身も何の不満もなかった。時には満点

をとる友達をみると、どうしてあんなにまでしなければと不思議に思った。僕は満点主義ではなくて七十点主義であつた。この七十点主義は老年になってからやっと気がついて、物事は何事も完全におぼえることに気がついた。満点主義に入ったが年令的にもおくれすぎた。両親は兄が秀才であつたから、子供はほっておいた方がいいと思つたかもしれない。私はもう少し中学・大学時代に書籍を読むべきだったと反省している。

何も言わなかつた母にはもつと感謝している。あなたの私に下さつた自由をなんとむだづかいしたのか。今はすまないばかりです。



## 住職童話

今日も二人はガンジスのデルタ地帯の布教をしてみえた。阿難がいった。

「お釈迦様、ここは低い地方ですね。家の下は海です。土台の低い家がうずまりそうです。どうしてこんな危険な所に住んでいるのですか」

お釈迦様は静かにおっしゃった。

「阿難よ。高原のいい場所に住む人もインド人です。この海岸べりに住むのもインド人です。一つの大波がくればこの部落は流されてしまうでしょう。でもそこに住まねばならぬのです。人間にはカーストがあって、なかなか一つにならぬのです。高台の人達がなにがしのお金を出して堤防をつくってやるとか、安全な高地をきめてやるとか手をつくしてやるべきです。私の常に話している慈悲とはそういうものです。『わけあたえてやる』こと、地球上の人が全ての人に過不足をならしてゆくことがどうしてできないのでしょうか。それは煩惱欲望のせいです。私は常にこれを調和することを話しているのです。阿難もよくこれをわきまえて、この道をすすんで下さい。世界の人の楽しいように」



## 元氣な母

美喜子

母は九十八歳となりましたが、今でも私を人前では、むすめ娘と呼びます。私は顔のしわも多く、七十二歳になって娘と呼ばれるのは恥ずかしい限りです。

この時期は「しそ」の出荷が忙しく、母は耳がとおくなりましたが眼は良く見えて元気で人以上に袋詰めや量のはかりなど、一日三時間ぐらい一生懸命しあわせそうな顔をして多くもくと働きます。

夏には「しめ縄」の出荷のために、稲の苗を刈って干し作成準備にかかります。城屋敷神明社の鳥居にかかるしめ縄は二十年来、母の作成したもので、神明社から元気をいただいているものと手を合わせ喜んでおります。

いつまでも百姓をして元気で長生きしてもらいたいと願っております。

## 返書

林立している芭蕉の樹、半世紀も前に靖国の里のとある家の建て増しの邪魔とて三尺足らず二本、乗用車にて我が家へ嫁入り。土地と日光が合ったとみえて殖えまくりご覧のていたらしく。一年に二度プロの手を借りてバサッと切られても又、どンドン芽を伸ばす。留守を守るあばら家の後期高令者の女、その生命力にあやからんと今日も一人で頑張っています。

きっと靖国の里の芭蕉の親兄弟は天国に召されたと思います。早く逝きし夫、山野草を採集購入し植えまくり繁殖困難。高価なものだけが夫のあとを追いました。残ったものは殖えて困るものばかり。良寛の五合庵の水引草しかり、人様にも差し上げられないものばかり。

芭蕉の詠んだ「夏草や兵共がゆめの跡」は夏草だけです。我が家は春夏秋冬それぞれ命をもった個性溢れる草一杯で、これが我が家で自慢できる第一番です。

御院住様にいただきましたお歌に対して御返書とします。

四月二十日

正子



インドクシナガラ茶毘塚だびづか（撮影 寺西税）

点灯にはたと目のあふ嫁の君

えみ女

ひぐらしや名残りの句会の座のひらく

古虎溪の滝の打つ音編む百号

# 行事予定

(四月)



四月 六日(水) 常任委員会

九日(土) 七時半 同朋委員会・例会  
(役員は六時半)

十九日(火) 二時～四時 学習会

二十八日(木) 朝 おみがき

二十八日講・女人講

# 行事予定

(五月)

五月五日(祝)

復興永代経執行

午前十時より おつとめ おとき

説教 本澄寺 明仁師

午後は特別プログラムとして  
有志による詩吟・民謡・舞踊など  
廣讚寺座による演劇もあります

五月十四日(土) 七時半 同朋委員会例会  
(役員は七時)

十九日(木) 二時～四時 学習会

二十八日(土) 十時 二十八日講・女人講